

三 姉、牛乳店

私たち兄弟は一番上が姉、次が兄、それから私、私の下が妹の武子でした。姉智嘉穂は長崎県立長崎高等女学校の第一回の卒業でした。非常によくできるりこうな人で、成績一番で卒業しています。非常におとなしい、優しい上品な立派な人でした。文字もきれいな字を書いています。運動会の時、柿むき競争というのがあり。食べるころはないほど皮をむいて駆けつけ一位になったことがあつたなど聞いていました。卒業後、長崎市立仁田尋常小学校に勤めていました。非常に進歩的な人でもあり、その当時、市内の女教員達はみな海老茶の袴をはいていたのですが、姉は尖端を切つて灰色のようなきれいな袴を創作し、はいていました。私の家内の母、高取千代という人とともに女教員会の代表でした。

長崎県知事をされていた李家隆介氏は退職されて下関の市長さんになられたのですが、奥さんが亡くなられたためにその後妻に姉を所望されたのです。これは私の中学校の校長をしておられた中村安太郎先生の推薦でした。李家知事さんは静岡県の知事さんから長崎県の知事さんになって来られたのですが、お子さんを静岡中学に入れておられたのです。その中学の校長をしておられたのが中村安太郎先生でした。知事さんは長崎にかわられたのですから中村先生を長崎中学校長にされ、ご自分のお子さんを長崎中学校に入れ、お子さんの教育を托されたのです。それほど知事さんは中村先生をご信頼になつておられ